

モンシロチョウ

Artogeia rapae

シロチョウ科



モンシロチョウ

撮チョウ標本：吉原利之氏作成・所蔵

名前の由来

黒い紋のある白いチョウの意味と思われる。チョウという言葉はもともと「漢語」から取り入れたものである。
漢字名：紋白蝶

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原)
鳥類
ワシ、タカ、樹林

特定種

該当なし。

形態的特徴

白い羽に小さな黒い紋があるシロチョウ。地色は白で前翅の先端に黒斑がある。後翅はほとんど白一色。

類似種と見分け方

オオモンシロチョウ。

オオモンシロチョウの方が大きく、オスメスとも前翅の先端の黒斑が発達していて、外縁の半分以上を占める。



かなり下まで黒い部分が続く

オオモンシロチョウ。表（左がオス、右がメス）



翅脈（スジ）がくっきり浮き立って見える

エゾスジグロシロチョウ。表（左がオス、右がメス）



モンシロチョウ。表（左がオス、右がメス）



モンシロチョウ。ウラ（左がオス、右がメス）

チョウ標本：吉原利之氏作成・所蔵

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
卵期		■		■		■						
幼虫期		■	■	■	■	■	■					
蛹期	■		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
成虫期	■	■	■	■	■	■	■					

生育環境・分布

路傍、耕作地、原野などの日当たりの良い場所を好む。
分布：国外分布は、アフリカ大陸中南部と中～南アメリカ大陸を除く、世界の温帯から亜寒帯。国内分布は、ほ

ぼ日本全域。北海道内分布は、全域。
十勝地方では、平野部で普通に見られる。

繁殖生態・寿命

年3～4回発生。成虫は4～5月より出現。越冬態は蛹。卵は食草の葉裏を中心にいろいろな部分の主として下面に1個ずつ産みつけられる。
幼虫は若齢時には葉裏にいて、成長すると葉表に出てく

る。葉に穴をあけるようにして食べるが多い。葉の小さな植物ではへりからも食べる。蛹は葉裏で蛹化するものが多いが食草を離れて塀などに付くものもある。寿命：不明。

他生物との関わり

- * 幼虫はキャベツなどの栽培種やスカシタゴボウ、コンロンソウなどのアブラナ科植物を食草とする。
- * 天敵としてアオムシサムライコマユバチが寄生する。その他にヒメバチ類、ヤドリバエなどの各種の寄生者が知られている。
- * 幼虫にはさらにセスジアカムネグモ、ハナグモ、アカサシガメ、アオクチブトカメムシ、セグロアシナガバチ、クロスズメバチなどの天敵がある。
- * スズメ、ヒヨドリなどにも捕食される。
- * しばしばウイルスや菌類により病死する。
- * 成虫はクモ類、トンボ類、カマキリ類、ムシヒキアブ

類などにより捕食される。



スカシタゴボウ。
モンシロチョウ幼虫の食草の一つ（在来種）

幼虫の食性（食草）

キャベツなどの栽培種やスカシタゴボウ、コンロンソウなどのアブラナ科植物。

興味深い話

- オスは他の種に対して強い排他性を示し、キャベツ畑等では集団でスジグロシロチョウを追い立てる行動が見られる。メスは羽化後に発生地を離れることが多い。
- 野生の植物よりもダイコン、キャベツ、ヤマワサビ、ブロッコリなどの栽培種の畑で多いが大規模な農家の畑より、農薬を使用しない家庭菜園などのほうが良く見られる。
- 近縁種であるオオモンシロチョウが1996年に後志地方で確認されたのを皮切りに急速に分布を広げ、十勝地方

には1999年に初めて確認された。それからわずか数年のあいだで、十勝でもあつという間に拡散し、2002年の現状ではオオモンシロチョウの方が多くみかけられるほどになっているという。（木村、1997）
■ オスの翅は紫外線を吸収し、メスの翅は紫外線を反射する。モンシロチョウは紫外線を見ることができるので、これによってオスメスを容易に区別できるはずだという。
■ 十勝地方のアイヌ語では、白いチョウ類を「イソポマレウレウ」、チョウ類一般を「マレウレウ」という。

配慮事項

河川環境では、河川敷や周辺の耕作地のキャベツ畑などに多く見られる。明るい草原的な環境を好み、人為的環境に対しても強い適応力をもつ。

参考文献

「原色蝶類検索図鑑」猪又敏男 北隆館 1990
「日本のチョウ」海野和男、青山潤三 小学館 1981
「原色昆虫大図鑑Ⅰ（蝶蛾編）」北隆館 1978
「十勝の蝶」大和与三追悼集 十勝蝶の会 1993
「北海道の蝶」永盛拓行・永森俊行・坪内純・辻規男 北海道新聞社 1986
「原色日本蝶類生態図鑑（Ⅰ）」福田晴夫・浜栄一 他 保育社 1982

「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994
「コタン昆虫記（4）チョウ篇」井上寿 十勝地方史研究所 1988
「知里真志保著作集 別巻Ⅰ 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社 1976
木村利幸（1997）北からの侵入種オオモンシロチョウ。インセクタリウム、02：40-45。

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）
草花

（外来種）
草花

哺乳類

（水辺）
鳥類

（草原・樹林）
鳥類